

# 「新潟大学スポーツ」 地域に学び 実践活動レポート

## オンラインで 県内学生交流

2月17日、「令和3年度地域活動・学生発表交流会」が開催され、本学2チームを含む県内学生11チームが地域連携活動の成果を発表した。

本交流会は県内の大学で「地域の活性化」や「社会貢献活動」に取り組む学生が、大学の枠を超えて課題やノウハウについて知恵を交換し合い、各自の活動の発展と新潟地域全体の活性化に貢献す

ることを目的として、平成30年度から開催しているが、2年連続でオンラインでの実施となった。

この2年間、地域活動に携わる学生たちはさまざまな場面で苦悩してきたが、そんな中、学生にとって貴重な経験を得る機会となったことを紹介したい。

昨年4月に新潟大学の事務局からの依頼があり、本学の学生4名が交流会の運営メンバーとして参加することとなった。他大学の学生、教職員と年間で約20回のオンラインミーティングを

行ってきた。また今年度は継続的な交流の場となるべく、新たに3回の「ブラッシュアップ・意見交換会」を設けた上で、最終的な成果発表会を開催した。毎回交代でファシリテーターや書記等の役割を分担し、交流を深め、経験値を高めていった。

運営メンバーの竹田岳史さん(4年生)は「成果発表会では積極的に質問や提案が出されて、ファシリテーターとしての自身の成長と手応えを感じた」と振り返った。杉田有紀奈さん(3年生)は「ミーティングを重ねることで多くの刺激を得られた。来年度はより多くの学生が交流の場に関心を持つように工夫していきたい」と意気込む。

これまで柏崎から新潟

市内での活動に継続的に参加するには地理的なハードルがあったが、オンラインで頻繁に交流できたのは、コロナ禍での思いがけない成果であった。今後は対面とオンラインをミックスして、よ

り多様な交流の場が生まれる可能性を感じている。  
経済学部講師・権田恭子  
(同大学地域連携センタ

